

0920 email t-hatsu@tokyo-np.co.jp

発

伸びる、縮む、曲がる。当たり前のように、よくよく考えるとすごいバネの魅力をもっと世の中に知らせたい。横浜市のバネ専門の町工場が考案したのは、バネを使ったオブジェに日用雑貨、洋服…。柔軟な発想が、ものづくりの常識に揺さぶりをかける。

# 東

名高速道路・横浜町田インターチェンジ近くに立つバネ専門メーカー「五光発條」を訪れると、村井秀敏社長(右)は銀色のバネでできた帽子をかぶっていた。懐から取り出した名刺入れもバネ、部屋のハンガーにはバネで編んだネクタイがかかっている。

「子どものころから絶えずバネに触れていました。ムニムニして、癒やされて…。この気持ちで、世界中の人に伝えたいのです」。熱く、バネ愛を語り始めた。一九七一年創業の家業を継ぎ、三年前の九月に社長に就任した。近年の年間売上高は、約四億八千万円。一年に五億個のバネを製造

するが「一個一円にも満たない」からほとんど薄利の業種だ。加えて主要な取引先の家電、自動車メーカーは工場の海外移転を進める。国産バネを取り巻く環境は厳しさを増すばかりだが、約五十人の従業員の雇用を守らなければならぬ。「百年後もバネひと筋の工場やっていく」と宣言した。

東日本大震災は、その半年後だった。注文の減少は、経費削減や、取引先を説得して輸送費のかかる少量納品を避けることで何とか乗り切ったが、下請けの悲哀をまざまざと感じた。大量生産ばかりを目指してきた発想を転換し、少量でも付加価値のある商品を作っていく必要性を痛感した。



バネで作ったオブジェや雑貨(魚眼レンズ使用)

# バネアート



①「SpLink」に使うバネと接続パーツ  
②「バネにさわっていると癒やされます」と話す五光発條の村井秀敏社長

## 「100年後も操業」町工場の挑戦



職人の技でパーツ製造



「SpLink」で組み立てたカエル

「SpLink(スプリング)」の問い合わせは、五光発條=電045(921)0868=へ。

# 小

小さなバネで何ができるか。趣味のブロック玩具からひらめいた。パーツをバネにしたら、自由自在に形を変えられる面白さがあった。カエルやドクロ、魚…。製作に一日十八時間、一カ月も費やした全長

一匹の「昇龍」が自信作だ。「大人のための鉄のブロック玩具だ。クールな遊びになる」と思った。五月に都内で開かれたアートイベント「デザインフェスタ」に作品を出展したら、手芸好きの女性からも好評だった。「指先を使う

ので認知症予防グッズになる」「独特の光沢と質感が、洋服素材にいい」との意見もあった。九月にもバネブロックのキット商品を発売する予定。二千〜四千五百円程度でネコやカエルなどの動物を作るために必要なバネと、

作り方の説明書を付けて売る。商品名の「SpLink(スプリング)」は「Spring(バネ)」と「Link(つなぐ)」の造語だ。どんな状況でも柔軟に変化し、時に伸び縮みしながら、人と人をつなぐ。そんな願いがある。

村井さんは「バネアートで、世界中の人の心をワクワクにつなげたい」と意気込む。町工場の底力で、新たなホビーのジャンルを切り開くか。  
文・中沢佳子／写真・岩本旭人  
紙面構成・越田普之